

富山県内のカキノキに残る2019年秋のツキノワグマの痕跡

著者	南部 久男
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	45
ページ	67-68
発行年	2021-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=2025

短 報

富山県内のカキノキに残る
 2019年秋のツノワグマの痕跡

南部 久男

富山市科学博物館登録ボランティア
 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Traces Marked by Japanese Black Bear on
 Persimmon Trees in Toyama Prefecture,
 Central Japan, in Autumn 2019

Hisao Nambu

Toyama Science Museum Volunteer
 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

富山県の低山の河川流域や山麓部の人里周辺でのツキノワグマの出没状況を知るための基礎資料として、筆者は2010年から2017年の秋にカキノキにつけられたクマの痕跡(爪痕)を継続的に調査し(2018年秋は未調査)、報告してきた(後藤・南部, 2012, 2015; 南部ら, 2016, 2017; 南部・白石, 2018)。本稿では2019年秋にカキノキにつけられたクマの痕跡(爪痕)の調査結果を報告する。

2. 調査地及び方法

調査地域は、後藤・南部(2012)の定点調査地域である県内の河川流域等の、山麓や山間集落等の20地域の内19地域である(図1, 表1)。原則として後藤・南部(2012)の2010年秋に調査したカキノキについて爪痕を確認したが、2020年は新型コロナウイルス(COVID-19)の発生のため、調査地点、調査本数を絞って調査を行った。現地調査は2019年12月~2020年8月に行い、福光地域の一部は2019年10月に行った。

3. 結果及び考察

調査した19地域で2019年秋にカキノキにクマにつけられた爪痕があった割合を表1に記す。19地域の内、余川川と舟川山麓部の2地域でクマの爪痕は確認できず、そのほかの17地域でクマの爪痕を確認した。調査本数に対するクマの爪痕があるカキノキの割合は、調査本数が10本以上の地域で、神通川流域山田川、同井田川、熊野川、角川で20~40%を示し、小矢部川流域福光地域、同城端

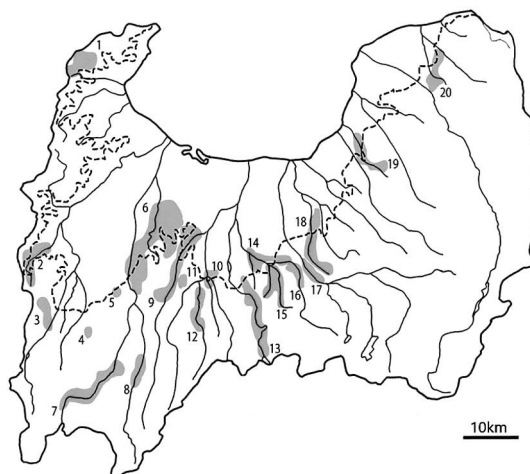


図1 富山県内の各調査地域(網掛け部分)。番号は表1に対応する。図の点線は標高100mライン。バーは10km。

表1 2019年秋のカキノキに残るツキノワグマの爪痕の割合。

調査地	調査本数	爪痕有 2019秋	割合
1 余川川	22	0	0%
2 渋江川	2	1	50%
小矢部川流域 (計)	21	17	81%
3 福光地域	10	8	80%
4 城端地域	11	9	82%
庄川流域 (計)	83	7	8.4%
5 井波地域	7	2	28.6%
6 庄川	67	2	3.0%
7 五箇山地域	9	3	33.3%
8 利賀川	-	-	-
神通川流域 (計)	118	61	51.7%
9 山田川	45	17	37.8%
10 井田川	17	5	29.4%
11 室牧川	3	3	100.0%
12 野積川	12	10	83.3%
13 神通川本流上流域	41	26	63.4%
熊野川流域 (計)	117	57	48.7%
14 熊野川	86	34	39.5%
15 黒川流域	19	15	78.9%
16 熊野川上流域	12	8	66.7%
17 常願寺川	7	4	57.1%
18 柘津川	9	3	33.3%
19 角川	22	5	22.7%
20 舟川山麓部	16	0	0.0%
計	417	155	37.2%

地域、神通川流域野積川、神通川本流上流、熊野川流域黒川流域、熊野川上流域で50%を越す高い値を示した。富山県全体では37.2%を示した。

カキノキに残るクマの爪痕の割合は、秋にクマの出没が平年並又は一部の地域で出没が多かった年を含む2011

年～2017年では、カキノキに残る爪痕の割合は、全県で0～8.1%の範囲にあった（後藤・南部，2013，2015；南部・白石，2018，2020；南部ら，2016，2017）。2006年秋と2010年秋のクマの大量出沒時では、その割合はそれぞれ、22.9%と32.9%を示した（後藤・南部，2012；南部・白石，2012）。2019年秋も、調査本数は異なるがその割合は37.2%と過去の大量出沒年と同様に高い値を示した。

富山県（2019）によれば、県内の2019年秋の堅果類の豊凶は、ブナ（県内15箇所）は全県が凶作、ミズナラ（県内16箇所）は県東部が凶作、県西部が不作で、全県では凶作、コナラ（県内10箇所）は全県で不作であり、クマが大量出沒した2006年と2010年と同様に悪い状況とされた。このような状況のため、富山県では秋にクマの大量出沒が起き、9～12月の出沒は786件にのぼった（富山県，2020）。2019年秋は堅果類の実りが悪く、秋にクマがエサを求め山麓や山間部の集落にやってきた地域が多く、そこでカキの実を採食したため爪痕のあるカキノキの割合が高くなったと思われる。

4. 引用文献

- 後藤優介・南部久男，2012. 富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について. 富山の生物，(51): 93-100.
- 後藤優介・南部久男，2013. 富山県におけるツキノワグマによる2011年秋のカキノキ利用状況. 富山市科学博物館研究報告，(37): 115-117.
- 後藤優介・南部久男，2015. 富山県におけるツキノワグマによる2012～2013年秋のカキノキ利用状況. 富山市科学博物館研究報告，(39): 95-96.
- 南部久男・白石俊明，2012. 富山県におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(36): 9-12.
- 南部久男・白石俊明，2018. 富山県内のカキノキに残る2016年秋のツキノワグマの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(42): 69-70.
- 南部久男・白石俊明，2020. 富山県内のカキノキに残る2017年秋のツキノワグマの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(44): 51-52.
- 南部久男・白石俊明・後藤優介，2016. 富山県におけるツキノワグマによる2014年秋のカキノキ利用状況. 富山市科学博物館研究報告，(40): 97-98.
- 南部久男・白石俊明・後藤優介，2017. 富山県内のカキノキに残る2015年秋のツキノワグマの痕跡. 富山市科学博物館研究報告，(41): 71-73.
- 富山県，2019. 令和元年度堅果類（ドングリ）の豊凶調査の概要について. http://www.pref.toyama.jp/cms_pfile/00022598/01456459.pdf. 2021年2月4日閲覧.
- 富山県，2020. 令和元年ツキノワグマ目撃痕跡情報. 最終更新日：2020年2月13日. http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/kj00020161.html. 2021年2月4日閲覧.